

令和6年度第1回岡崎市観光基本計画推進委員会 会議録

1 日 時 令和6年10月24日（木）15時～16時40分

2 場 所 岡崎市役所分館2階202号室

3 委員（敬称略）

出席者：高橋一夫、岩月幹雄、藤井克弘、八木則行、花村元気、竹内博剛、
西尾孝志、加藤英紀、平岩亮人、市川文勇、中林菜穂子、平野精一、
香西佑香

欠席者：なし

4 オブザーバー（敬称略）

出席者：丹羽邦夫、靱井泰晴

欠席者：なし

5 事務局

経済振興部長：鈴木洋人、経済振興部技術担当部長：香村尚将

観光推進課長：二村和孝、同副課長：黒川憲子、同課観光推進係長：清水
里美、同主任主査：杉浦美穂、同主事：山本雄大、同課家康公係長：牛田
成将

6 関係者

商工労政課長：水上順司、文化振興課長：山田能正、スポーツ振興課長：
木和田佐奈枝、まちづくり推進課長：浅井恒之

7 議題

- (1) 委員長及び職務代理者の選任について
- (2) 観光白書について
- (3) 観光事業について
- (4) その他

8 傍聴者

1名

9 議事要旨

—開会—

議題1 委員長及び職務代理者の選任について

資料1、資料2に基づいて事務局から次のとおり説明。

・岡崎市観光基本計画推進委員会要綱第2条により委員長を互選し、第2条の3により委員長に職務代理者を指名していただきたい。

【委員の意見】

○委員長は引き続き高橋委員にお願いしたい。

・特に異議なく、委員長は高橋委員に決定した。

【委員長の指名】

委員長) 岩月委員を職務代理者に指名する。

議題2 観光白書について

資料3、資料4、資料5に基づいて事務局から次のとおり説明。

- ・観光白書は、観光施策の効果を検証するため、観光に関するデータを取りまとめて平成30年度から毎年発行している。
- ・今年度から第2次観光基本計画をスタートし施策や目標を改めたことから観光白書の内容も改訂したい。また、観光入込客数の対象施設やベントを最近の観光情勢に合わせて見直したい。
- ・観光白書掲載のデータによる令和5年度の本市の観光状況は、大河ドラマの影響により観光施設入込客数は平成26年度以降の最高人数だったものの、宿泊客数は前年度と同程度にとどまった。日帰り又は市外での宿泊が多く残念だった。来訪者満足度は最高を記録。経済効果が前年度を下回り目標未満だったのは日帰り客の消費単価が前々年度以前の額に戻ったことが主な理由。

【委員の意見等】

○去年は、大河ドラマの影響で岡崎公園へバスツアーがたくさん来ていたが、市内での宿泊に繋がるような取り組みができなかったことは残念だ。

○自分の所属する施設では個人もバスツアーも増えたが日帰り客が多かった。委員長) ネット予約が主流の個人旅行が多い時代だが、大河ドラマ関連ではバスツアーが多く造成されるため、旅行会社へ市内宿泊をアピールできていれば効果が得られたかもしれない。今後の検討材料にするとよい。

○岡崎公園を中心に多くの観光客が来訪されており、観光白書の来訪者満足度のデータによれば満足度もアップしている。さらに満足度の向上を図るためには、周辺での駐車場や案内表示が少ないことが課題だと思う。

○岡崎公園でガイドをしているが、去年は観光客が多く忙しかった。ただ、個人・団体ともだいたい1時間位で帰られるので、飲食などによる経済効果については非常に疑問なところだ。八丁味噌料理を食べてほしいが、岡崎公園内でも市内の神社仏閣周辺でも紹介できる飲食店が少なく、観光客が満足できるような飲食の提供ができていないと感じる。

○大樹寺では昭和 58 年の大河ドラマ「徳川家康」放送の際は境内にバスが入りきらず苦情も出たため、去年は市の協力により別の場所にバス駐車場を用意したが、個人客が多くあまり利用されなかった。境内では軽食の提供が行われており評判がよいが、小規模なためバスツアーには対応できていない。

○遠方から岡崎に来る人は、東海地区のいろいろな所に行きたいと考えるので、岡崎城、八丁味噌蔵、大樹寺等を回ると、伊勢等他の観光地へ行ってしまい、市内で宿泊してもらえない。夜の滞在に繋がる飲食、その他のイベントが課題だと思う。

○東海オンエアの聖地巡礼のための宿泊は増えている。

委員長) 岡崎に宿泊する理由をしっかりと作ることも必要だ。

○観光白書の来訪者満足度のデータでは、市内交通への改善要望が多いが、タクシーやバスは乗務員不足のため充実できない事情もあり難しいところだ。昨今、自家用車による有償運送サービスが話題となっている。交通事業者の立場としては安全性・安定性の担保されているタクシーの利用を推奨したいが、地域によってはタクシー利用が不可能な状況になっており、救済手段などとして自家用有償運送サービスが拡大していくのではないかと考えている。

委員長) 今年 3 月に国土交通省が作成した自家用有償運送サービスのガイドラインでは、観光ガイドなどが業務の一環として運送サービスを提供することも推奨している。ガソリン代は実費精算とし、ガイドは予めDMOなどの公的機関の認証が必要。人手不足の問題もある中、多様な考え方を持つとともに、ガイドの育成についても議論を進めると交通課題の解決に繋がる可能性もある。

○ここ数年で岡崎は観光地化が進んだ印象。案内表示の整備や若者がレンタサイクルで市内を走っているのを目にして、様々な取り組みが成果に繋がっていると感じる。観光に力を入れ始めた一方で、宿泊客数が残念な結果。大河ドラマによる観光客は温泉旅館や懐石料理を嗜好するだろうが、市内はビジネスホテルが多く、ニーズを取り込めなかったのでは。宿泊による経済効果が難しい場合はグルメが重要だと思う。犬山城下では団子などの食べ歩きができて楽しめる。気軽に食べられ岡崎らしいグルメがあるとよい。

○最近の宿泊に関する状況として、東京を中心とした宿泊単価の上昇、インバウンド需要の回復が挙げられる。

委員長) オンライン会議の普及により移動することがコストと捉えられており、その減収分をインバウンドや単価アップで埋める傾向になっている。岡崎の観光産業を支えていくためにも新たな観光客が必要である。

○観光白書の観光施設入込客数のデータによれば、岡崎公園は観光客が非常に増加しているが、それ以外は八丁味噌蔵を除き増えていない。大河ドラマ館には入館するが、周遊はされなかったということが表れている。宿泊されれば状況は違っていたのでは。「もっと岡崎、きっと家康」のキャッチコピーを大事にした取り組みを続けるとよいと思う。

○インターネットで地域情報を記事として発信している。30～50 歳代の閲覧が

多く、グルメに関する記事が最も人気。グルメは注目度が高い。夜の経済効果として12月に実施される「宵まいり」のイベントに可能性を感じる。去年は岡崎公園から松應寺に向かって夜歩くものだったが、歩きやすく雰囲気もよい。ドイツのクリスマスマーケットのような雰囲気も出しつつ、買い物目的の人が集まる工夫があれば宿泊にも繋がるのではないかと。ランタンを持って練り歩くとか、英語のできる子どもをボランティアに使うなどすれば市民も楽しめる。

○岡崎は京都よりお寺が多いとされ歴史深いものも多数あるが、あまり知られていない。距離的な事情や興味の度合い、交通渋滞などの課題もある中、旅行の満足度を高めるには内容を充実させることが重要だと感じる。例えばタクシー又はバスで2時間で回れるような、岡崎ならではのコースが提案されていれば、観光客に楽しんでもらえるのではないかと。

○観光による経済効果を目指す上で最も寄与するのは宿泊だが、市内の宿泊施設では平日・休日の利用実態はどうか。

○宿泊施設の利用は年間を通じてほぼ平準化している。

○先日、岡崎でのスポーツイベントの際に大人数での宿泊が市内では難しいという話を耳にした。せっかくの機会に市内でなく近隣市で宿泊されるとしたらもったいない。また、宿泊の動機としてグルメは大きい。金沢などでは昼のマップと夜のマップがあって店舗の情報が得られる。経済効果を高めるには、宿泊してもらう必要があり、それに結びつくようなものを開発していかなければならないと思う。

○イベントの入込客数が、平成26年度の196万人に対し昨年度は72万で大きく減少しているが、理由は何か。

事務局) 桜まつりや花火大会の入込客数について、集計方法を変更したことが大きな理由。平成26年度は経験による推計値だったが、最近はビッグデータを活用することが可能になり、実数に近づいたと考えている。

委員長) 滋賀県にあるビジネスホテルの例だが、宿泊データを飲食店と共有し、閑散期にサラリーマン客を誘導するためのクーポン付きプランを売り出して効果を上げている。ホテルの大切な経営データだが地域で共有することにより有効な施策が展開される可能性もある。

議題3 観光事業について

資料6に基づいて事務局から次のとおり説明。

- ・観光基本計画やどまんなかプロジェクトに基づき、季節ごとにイベントや周遊事業を実施している。

- ・今年「開市500年」にあたるため事業には冠を付すなどして実施中。

【委員の意見等】

委員長) 事業のプロモーション方法は。

事務局) 報道発表等の公表は所管課で行うが、市公式観光サイトで集約しPR

している。

委員長) デジタル化の進展によりプロモーションには高度なマーケティング手法が必要になっている。国の補助金もその視点を重視するため、自治体やDMOは資金調達面で留意が必要。観光庁がDMOを認定する際のKPIを来年度から変更し、域内調達率、住民満足度、海外向けサイトの閲覧数、運営資金の確保などとして、地域の観光の司令塔としてふさわしいかを判断する。今後、岡崎市もDMOと協力して観光振興を図っていくのであれば、それらの指標にも目を向けざるを得ないのでは。二次交通などDMOだけでは解決困難な課題もあり、総合的な観点が必要になっている。

○市内には様々な分野で活躍する市民団体が存在する。団体活動の一環としてイベントなどへ協力することにより、モノと金だけでなく人の域内循環を可能にする。中間支援組織で紹介や支援できるので活用していただきたい。

委員長) 東大阪市では、修学旅行生を対象としたコンテンツとして町工場の高度な技術の見学があり、市内での宿泊を条件としている。地域の事業者等と繋がりながら社会的価値と経済的価値が両立できる事例だが、岡崎での市民活動もそういったコンテンツとなる可能性がある。

議題4 その他

【情報提供等】

○誘客活動で全国を回った経験があるが、岡崎の知名度は結構高い。歴史ある都市であり関東や関西向けにしっかりPRすれば、来訪者は増えるのではないかと。本日は6年ぶりに東岡崎駅から市役所まで歩いてきたが、乙川周辺が整備され京都のような雰囲気も感じた。人が集まって賑わう可能性があると思った。海外の旅行会社も訪問したが、愛知・名古屋の知名度は低い反面、トヨタ自動車はどこへ行っても知られていた。インバウンドは団体から個人旅行が主流となった。岡崎の歴史等もPRすれば海外からの来訪も見込めると思うので、愛知県観光協会も協力していく。

○岡崎市観光協会は、現在はDMOの候補法人となっている。認定に向けてKPIなども精査していきたい。委員から話のあった「宵まいり」のイベントは、市内事業者の提案がベース。飲食店などが期間限定で夜間営業し夜の観光消費に繋げる取り組みとなっている。地域の方と一緒に観光を進めていきたい。

○愛知県では発酵食によるインバウンドを推進しており、11月には鉄道事業者も協力した中部運輸局主催のセミナーが岡崎市内で開催される。地域資源を活かした誘客の取り組みであり、ぜひご参加いただきたい。